

法科大学院

教授 前田 修志

著者はこの本の冒頭で「本書は、文章を書く際にすぐに使えるマニュアルになること」を目的としていると記しています。“マニュアル”と言われると、小手先のテクニックが書かれているようですが、この本はそういう類いのものではなく、「誰かに自分の考えを伝える」ための文章とはこうあるべき、という一つのスタイルを示すものとなっています。

文章だけで自分の考えを相手に伝えるというのは簡単ではありません。直接その場において会話をしている相手などであれば、表情や声のトーンからいろいろなことを伝えることもできます。SNSであればスタンプや絵文字などで補うこともできるでしょう。それが文章だけとなるとなかなか伝わらないものです。

ましてや、レポートや論文といった論述的な文章になると、自分の考えを自分の言葉で伝えるということの難しさは格段に上がります。大学ではレポートなどを書く機会も多くなります。そんなとき、せっかくいろいろな自分で調べたり考えたりしたのに、それがうまく表現できないと、もどかしい思いをすることもあるでしょう。

本書は、こうしたレポートなどの論述的な文章を書くときの「手順」を示してくれるものです。“伝えたいこと”（メッセージ）を“どう伝えればいいのか”に迷ったとき、本書を手にとってみてください。全てを実践する必要はありません。「こういうやり方もあるんだ」ということを知ることが、皆さんの道標になると思います。

『「超」文章法：伝えたいことをどう書くか』（中公新書）
野口悠紀雄
(2002, 中央公論新社)

【所蔵情報】

本館	資料ID	700719164
	請求記号	X/081/C64/1662
神田分館 Knowledge Base 展示中	資料ID	700728710
	請求記号	X/081/C64/1662/

